

中山間ふるさと支援事業 について

埼玉県農林部
農業ビジネス支援課

中山間ふるさと支援事業の背景

現状

- 高齢化する中山間集落（H22高齢化率 28.6%・全県20.4%）
- 人口減少の進行（H17 → H22 92.84%・全県101.98%）

課題

- 高齢化、人口減少により地域コミュニティの維持が困難
- 営農の継続、伝統文化の継承、耕作放棄地の増加等が懸念

これらの中山間地域が抱える課題に対応するために



「中山間ふるさと支援事業」を実施

中山間ふるさと支援事業とは

- 中山間地域が有する多面的機能の発揮と、地域住民活動の活性化を目的とする。
- 中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱(農林水産省)に基づき、都道府県に基金を設置。埼玉県の積立額は6億9千万円。
- 事業主体は都道府県。
- 運用益と基金を取り崩して事業費としている。事業費は約9,433千円(H27)。

事業の構成

1 調査研究事業

- ・ 地域住民活動の活性化に係るワークショップ等の実施
- ・ 集落営農を確立するための新たな生産技術や鳥獣害対策の調査研究

2 研修事業

- ・ 地域活性化に必要なリーダーとなる人材を育成するための研修会の実施

3 啓発推進事業

- ・ 中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動の実施

中山間ふるさと支援事業計画(H27~H31)

事業区分	事業名	計画期間 の事業量	単位	年度別事業量				
				H27	H28	H29	H30	H31
1 調査研究 事業	(1) 住民活動支援 (コンサルタント)	3	地区	1 (1)	→ (1)	1 →		1
	(2) 住民活動支援 (ふるさと支援隊)	新規 10	支援隊	2 (3)	2 (2)	2	2	2
	(3) 集落営農体制確立	10	課題	2 (2)	2 (2)	2	2	2
2 研修事業	集落リーダー育成 研修	新規 10	人	2 (2)	2 (2)	2	2	2
3 啓発推進 事業	(1) 啓発・普及活動	15	回	3 (3)	3 (1)	3	3	3
	(2) 広報誌の配付	20	回	4 (4)	4 (2)	4	4	4

※ () 内は実績、ただし平成28年度は10月末現在

コンサルタントによる支援

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

秩父地域（H26～27）秩父観光農林業協会



平成26年2月の大雪による被害を契機に、秩父地域の観光農園経営者等が各種団体・企業と連携し、秩父地域の観光農園をPRする様々なキャンペーンを実施。

- ・鉄道会社との連携（秩父鉄道、西武鉄道）
- ・SATOYAMA&SATOUMI イベントとの連携（アイドルグループ「℃-ute」中島早貴さんと連携したPR）

横瀬町（H28～）株式会社東京ランドスケープ研究所



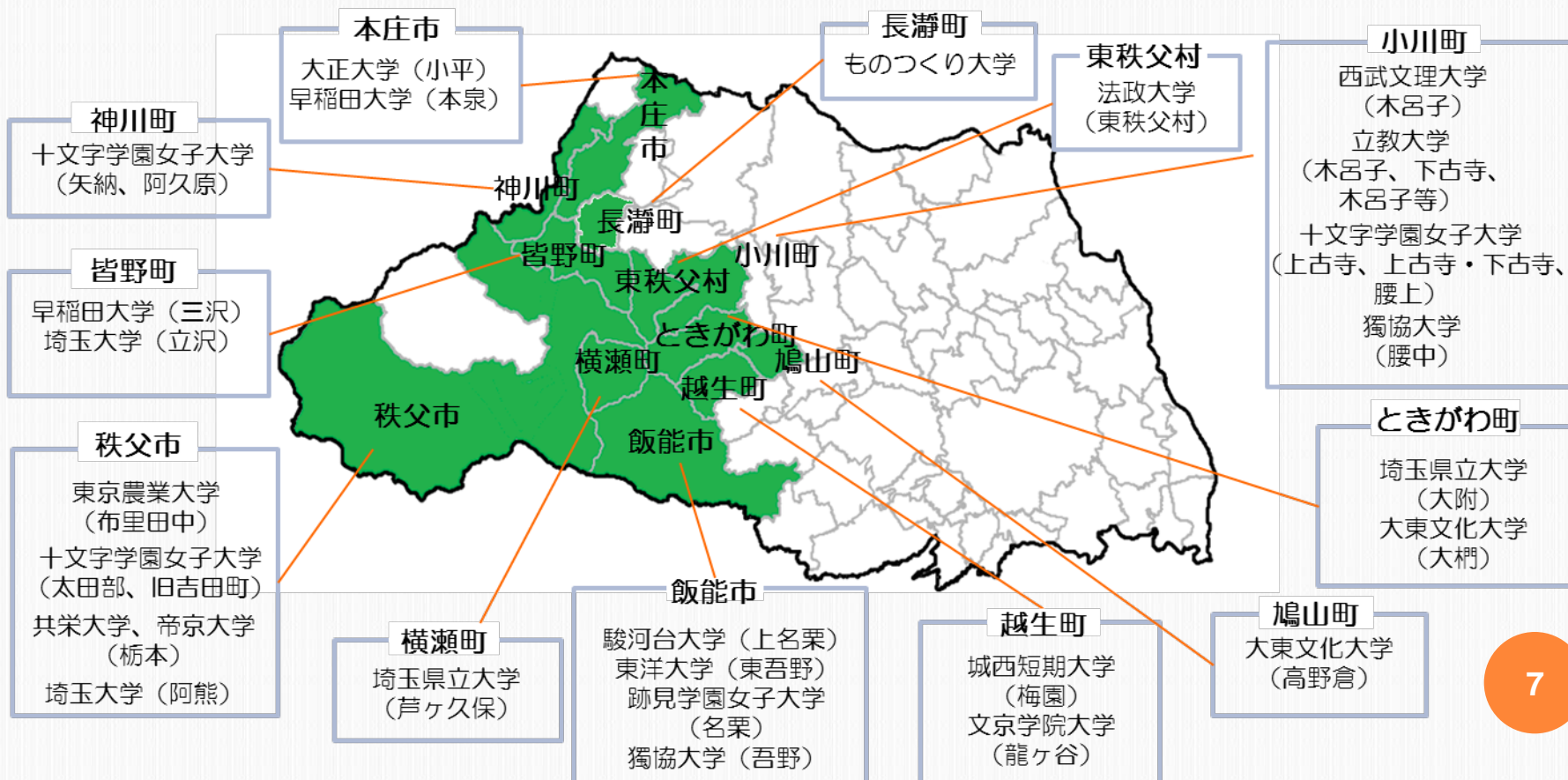
横瀬町が地域活性化を目指す中山間地域のモデルとなるよう、観光農園の充実及び各種イベントを通じた誘客者数の増加をテーマに活動を行っている。

- ・多言語対応の地域資源マップの作成
- ・横瀬町の地域資源を活用した商品開発

ふるさと支援隊による支援

大学生等の持つ新しい視点や行動力、専門技術・知識など「外からの力」を活用することによって、集落の活性化を図る。

平成22年度から延べ32支援隊が活動している。



ふるさと支援隊の活動(H27)



早稲田大学(皆野町三沢地区)
・活動に留学生を交え、文化交流や農作業を実施している。
・三沢地区で教わり、地元産の食材を活用した炭酸饅頭をカザフスタンの大学で提供し、地域情報を発信した。



獨協大学(小川町腰中地区)
・観光客増加や景観美化を目指し、コスモス畑を整備した。
・地域住民と協働で、野菜の栽培を行い、鳥獣害対策として専門家の指導のもと電気柵の設置も行った。



埼玉県立大学(ときがわ町大附地区)
・ときがわ町の良さ、移住者を受け入れるための課題を明らかにするために、移住者向け訪問調査を実施した。
・高齢者のサロン活動などに参加し、レクリエーション活動を行う。



東京農業大学(秩父市布里田中地区)
・地域住民と協力し、地元の小学生を対象に田植え・稲刈り体験を実施。
・吉田の持続を考えるワークショップを開催し、地域住民とともに今後の対策を検討している。



十文字学園女子大学(神川町阿久原地区)
・神川町の食・農・自然を「オーガニックビレッジ神川」としてブランド化することを目指し、情報発信を行う。
・農作業、料理検討会の実施。



十文字学園女子大学(小川町上古寺・下古寺地区)
・地域の高年層と若年層を繋ぎ、持続可能なコミュニティにするための支援を行う。
・伝統行事「エンエンワ」を支援。

1 調査研究事業 (2) 住民活動支援

ふるさと支援隊の活動(H27)



駿河台大学(飯能市上名栗地区)
・頻りに現地に足を運び、地域住民の指導も得て古民家を再生、活動拠点としてエコツーリズムを実施。
・荒廃農地の解消を目指して、畑づくりをし、野菜の栽培も行っている。



東洋大学(飯能市東吾野地区)
・健康増進や交流人口増加を目指し、ウォーキングイベントやグランドゴルフ大会の運営を企画段階から支援。
・料理コンテストや餅つき大会の企画運営を支援。



文京学院大学(越生町龍ヶ谷地区)
・お宅訪問インタビューを行い、地域資源の洗い出しを行い、オリジナルのマップを作成している。
・動画投稿サイトにて学内チャンネルを設け、地域情報や活動状況をPR。



十文字学園女子大学(秩父市旧吉田町地区)
・高齢者の訪問を行い、暮らしや農林業についての昔話を収集している。
・地域の祭に参加し、伝統行事の実践、映像化等の保存継承活動を実施。



大東文化大学(鳩山町高野倉地区)
・鳩山大豆ブランド復活を目指し、地域在来の手法で大豆を栽培している。
・加工品開発や地元の小学生を招いた枝豆の収穫体験を実施し、まちの話題となる積極的な広報活動を実施。

1 調査研究事業 (2)住民活動支援

ふるさと支援隊の活動状況(H28)

	大学名	市町村	対象集落	活動テーマ	継続/新規
1	獨協大学	小川町	腰中	観光・地域資源の活用と支援並びに保存活動	継続4年目
2	埼玉県立大学	ときがわ町	大附	地域行事への参加・支援と移住者訪問調査による地域の「再発見」	継続4年目
3	東京農業大学	秩父市	布里田中	布里田中を核としたコンパクトな地域づくり	継続4年目
4	十文字学園女子大学	神川町	阿久原	有機農業を核としたふるさと再発見	継続3年目
5	十文字学園女子大学	小川町	上古寺 下古寺	800年続いた伝統行事を核に中山間地住民中高年層と若者層をつなぐコミュニティデザイン	継続3年目
6	駿河台大学	飯能市	上名栗	楽山人塾 ～地域資源を活用するための学生と名栗住民との協働～	継続3年目

	大学名	市町村	対象集落	活動テーマ	継続/新規
7	東洋大学	飯能市	東吾野	食と運動の健康づくりサポートプロジェクト	継続3年目
8	文京学院大学	越生町	龍ヶ谷	マゴコロ宅急便プロジェクトー地域のニーズに合った「つながり」づくりの支援ー	継続2年目
9	十文字学園女子大学	秩父市	旧吉田町	伝統行事と農作業を通したふるさと支援	継続2年目
10	大東文化大学	鳩山町	高野倉	「鳩山大豆」の栽培・加工・広報による「元気創造」プロジェクト	継続2年目
11	立教大学	小川町	原川、笠原、 鞠負、木部、 勝呂、木呂子	地域の方と協働して地域の魅力を再発見する。	新規1年目
12	ものづくり大学	長瀨町	—	長瀨町における観光資源活用方針の最適化を目指したモデルプランの実施・実証	新規1年目

「ふるさと支援隊」中間活動報告会 (H28)



他の支援隊の活動内容を知り、活動の悩み等を解決し、今後の支援活動に活かすことを目的として開催。

(1) 第1部 活動報告

各支援隊がこれまでの活動内容や今後の活動計画について発表した。

(2) 第2部 意見交換

活動における課題の解決について自ら考え、実践するきっかけとするため、グループワーク形式での意見交換会を実施した。

「ふるさと支援隊が地域に溶け込むには」という共通の課題についてグループワークを行い、積極的な意見交換が行われた。



県農業技術研究センター等による支援

集落全体で取り組むべき新たな生産技術や鳥獣害対策等の調査研究を行い、農業生産の維持・拡大による中山間地域の活性化を図る。



鳥獣被害防止対策推進事業 (H27~H28)

- ニホンザルの効果的被害対策の研究
- 新たな被害防止技術(柵)の開発
- 加害動物に関する知識を周知するための画像を確保し、効果的な啓発活動を実施



秩父地域の風土を活かした茶の製造法の確立

(H27~H28)

- 地元の古生層の石を利用した秩父地域ならではの特徴のある緑茶の開発
- 手火入れ技術の特徴ある香味を残した簡易製造法の確立
- アグリフードEXPOに出展し、新規需要を開拓

ふるさとリーダー育成研修

中山間地域の活性化の推進及び助言等を行う人材を育成する。



体験活動時における安全対策（H27）

「農業・加工体験の安全管理のポイント
～事故の予防と傷病発生時の初期対応～」

- ・ 事故を予防する事前準備
- ・ 事故の予防につながる指導方法
- ・ 事故発生時の初期対応



外部人材を活用した地域活性化（H28）

「外部人材を活用した地域活性化への取組
について」

- ・ 外部人材を受け入れる際の受入側と支援側双方の心構え
- ・ 移住に関する現状

中山間地域における取組の広報

中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動を実施する。

各種イベントでのPR活動



<H27>

- J R浦和駅において秩父地域の観光農業をPR
- SAITAMA Smile Womenフェスタにおいて秩父地域の観光農業をPR
- 彩の国食と農林業ドリームフェスタにおいて埼玉県
の中山間地域の農業をPR



<H28>

- J R浦和駅において中山間地域の観光農業をPR
- 彩の国食と農林業ドリームフェスタにおいて埼玉県
の中山間地域の農業をPR
- 高坂SAにて中山間地域の農業をPR

広報誌の配付 (H27・H28)

中山間地域の農村の魅力や活性化の取組を紹介する情報誌『新・田舎人』を配布

※ 年4回配布(6月、9月、12月、3月)

御清聴ありがとうございました。

